

会議開催記録

会議名	第5回 森町学校のあり方検討会
日時	平成30年1月24日(月) 14:00～15:40
場所	森町文化会館第一研修室
出席者	教育長 検討会委員20名、事務局6名
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告書(答申)骨子案について (2) その他 4 連絡事項 5 閉会
議事要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会(事務局) 2 あいさつ(会長) <p>今回のあり方検討会がひとつの山場となる。今日の報告書の骨子案を審議し、最大限にいいものにしていき、次回までに完成させたい。その後は検討の場を教育委員会及び町長部局に移したうえで、より具体的な内容を進めていく。報告書の骨子案については委員に見てもらうのは初めてとなる。出来るだけ実のある議論をしていきたい。</p> 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告書(答申)骨子案について <p>会 長：報告書骨子案の説明 会議開催記録について、原則公開である。発言がしづらくなならないように個人が特定される内容は削除する方針である。個人が特定できる箇所等があれば指摘をお願いしたい。</p> <p>事 務 局：報告書骨子案の補足説明</p> <p>委 員：若年層人口について、中学校の生徒の人数に県立や私立への入学する人数は考慮していないとのことだが、そういった町外に出ていく可能性があるということを一文加えた方が良いのではないか。</p> <p>会 長：現在の数は森町の若年層がそのまま進学した場合の人数になっている。町外の学校に進学する場合や、転出などで人数が減る可能性があることを加える。</p> <p>会 長：報告書 3. アンケートの実施とその結果についての説明。</p> <p>委 員：1学級あたりの理想的な人数について、森中学校と旭が丘中学校で回答に差がある。問題の意図が正しく伝わらないまま回答している可能性がある。理想的な学級数と理想的な人数を2段階に分けた質問にした方が分かりやすかったのではないかと思った。個人的な感想だが、泉陽中学校の回答は本当に正しいのかと疑問に思う。</p> <p>会 長：理想的な学級数と人数については、回答を読み違えた人がいることは否定できない。しかし、この問題の誤解がなければ同じ回答の割合になるとは必ずしも言えない。中学校だけでなく、小規模の小学校でも同じ回答の傾向がある。</p> <p>委 員：幼稚園に関するアンケート内容について、再編が必要であるとの意見も多かったが、報告書の内容には書かれていない。幼稚園についてもどこかに記述は加えられるか。</p> <p>会 長：幼稚園に関しては、報告書内の対応の必要性や別紙でまとめている。幼稚園については文言を加える予定である。検討課題として触れるようにする。ただし、幼稚園の数を増やして欲しいのか、保育園化や延長保育を充実して欲しいのか、具体的な方法については検討内容になっていないので、問題提起というところでとどめる。</p> <p>委 員：報告書内の対応の必要性について、森中学校区の再編が必要であるとする回答の</p>

39%と旭が丘中学校区の現行のままで良いとする回答の 61%は同じ内容になるのではないか。

会長：文章からだそう読み取れてしまうので修正する。実際には未回答の選択肢があるので、2つの学校区での認識が違うことが分かる。

会長：報告書4. 今後の森町の学校のあり方に関する検討課題についての説明

委員：森町の学校のあり方ではなく、森町幼稚園・小中学校のあり方の方が良いのではないか。

会長：この会は義務教育を中心に検討を進めている。答申書の標記については課題として検討する。

委員：ICT関連活動や音楽機器、体験活動施設を充実させてとあるが、どのような内容なのか具体的なものはあるのか。

会長：例えばICT関連活動であればタブレットが人数分ある方が良いが、全校の全教室に配備することは難しいので、ICT機器をPC教室などに集めてそこでクラブ活動を行ったりする。楽器なども高価なので各学校で個別に整備するよりも、町で1か所場所を用意して、吹奏楽のクラブや部活などを行う場合はその場所で行うなど、そのような取り組みも案の一つとして可能である。

委員：課題の緊急性について、「喫煙の課題」や「早急に具体案の検討を開始することが望まれる」とあるが、時期についてはどの程度を想定しているのか。今学校に子供が通っている保護者からの関心が高い内容なので、具体案や計画の時期が分かる方が良い。

会長：どのくらいの時間がかかるのかというのは、何を行うのかによって大きく変わるのではっきりとは言えない。報告書の内容が抽象的になってしまったのもそれが原因である。個人的な考えとして、複数の計画を議論する必要があり、1年間ぐらいで結論を出す必要があると思っている。

教育長：緊急性などの言葉について、現場や検討会などの意見からすぐに行動しなければならないとは感じる。この検討会での結論を受けて、教育委員会で案を持って町長部局と話し合いを行う。森町の各課の代表者を集めた専門委員会を立ち上げて具体策を練っていく。中には遅いと感じる人や改善に向けて一歩ずつ進んでいると思って頂ける人もいると思う。今後は町長部局との話し合いを積極的に行う。

委員：泉陽中学校区の小学校で再編の必要があると回答した人が6割、中学校では7割になっている。この意見が出ている時に実際の対応が3～4年先の話になるというのは、時間をかけすぎているのではないか。もう少し早めの対応が必要だと感じる。

会長：対応の形が決まれば早急に行う事ができるが、校舎を建てるなど時間がどうしてもかかることがある。その間の教育は変わらないのかと不安に思う保護者はいる。子供には今と同じ教育を続けるしかないかという学校側で対応することもできる。例えば、学校教育活動を交流等によって合同で行うなど、学校現場で対応が可能なことについては教育委員会や学校長の判断のもと、早急に対応するのが望ましい。将来的に規模を大きくしていくことも必要だと思う。学校の判断で出来ることについては是非ともやって頂きたいと考えている。新学習指導要領の話もあるが、クラブ活動や総合学習は一緒にやるなど学校同士が協力すれば出来るかと個人的に考えている。検討会ではそこまで議論が出来なかったので、報告書の内容を最大限生かすように学校の中で努力をしてほしい。

委員：放課後児童クラブの合同は意味がないのではないか。他地区の学校へ行くのはなかなか難しい。幼稚園のうちなら問題はあまりない。一緒に授業を受けるなど、共に学校生活を送る環境を早急に整えなければならない。

会長：先ほどの話は、一つの例としての案である。いずれはそのような方向にいかなければ

ばならない。学校の再編が決まるまでに何もしないか、一つ一つの活動を合同で行って行く方が良いかという問題になったときにどうするか。学校が一つになるには、手続きにも時間がかかる。校舎を建てるならば4～5年以上、現在の校舎をそのまま使うとしても3年以上は必要である。少なくとも1～2年で出来る内容ではないので、それまでの間に少しずつでも一緒になる努力をした方が私は良いと考える。

委員：現在行っている取組みにより、子供の教育に対しての不安を減らしたいという思いが、今学校に子供を通わせている保護者に少しずつ伝わっていると思う。統廃合の問題に至る前の段階で対応をしていくことは重要である。しかし、現に統廃合の検討が必要な地区での不安を減らすような取組みも行う必要がある。

会長：学校再編が行われるまでの対応を一部の学校で行った方が良いという内容を、報告書に入れるかどうか。実際に再編が行われた時に、地域で子供を育てていけるような取組みを行うための準備期間が必要なので、再編が行われるまでの対応を入れた方が良いと考える。

教育長：川根町への視察を生かして三倉小学校に交流活動を取り入れた。今後は回数を少しずつ増やしていき交流学习に取り入れる予定であるが、日々の活動と照らし合わせると過度になりすぎると学校の負担が大きくなる。中学校では合同の部活を行うなど以前から交流もしている。学校では教員数が限られており、それに照らし合わせた部活の選択など、森町にはまだまだ課題がある。義務教育を出たところの影響については小学校よりも中学校の方に近々に問題が出てくる。

会長：具体的に盛り込むとすると、「④検討の進め方」または、新しく項を起こして、学校再編を検討の結果を待たず、可能なところは学校間の連携を強めた活動を実施し、その内容を教育課程やそれ以外で行うということの一部入れるのはどうか。しかし、保護者がそれを望まないのであれば、別の問題として捉える。

委員：目に見えるところに出てはいないが、学校は学校で取り組んでいることはやっていると思う。この内容を入れてしまうと本題がぶれてしまうので、一番重要な内容を集中して書いた方が良い。

委員：学校再編について統廃合が本当にされるのか、それがいつなのか明確に分からないので、それまでの間の対応ではないかと受け取ってしまう。そこに明確な答えがないと安心できない。

会長：この検討会は、教育委員会の外部に設置されており、客観的に判断するためのもの。最終的な判断は教育委員会が行う。検討会で方向性を出して、出来るだけ早く対応の判断を決めるが、実施するには計画を立てて、議会の承認を得なければならない。回りくどいと思うかもしれないが、順序を間違えてしまうと行政訴訟になりかねないので、着実に手続きをしなければならない。学校再編までの対応について、そこまでの経過を報告書に記載しなくても、学校間で交流を行うことは問題ないか。

委員：それで良いと思う。

会長：④の検討の進め方の記述について、いつまでという時期については書かれておらず、精神論的な書き方になっている。実際に対応を行うのかどうかという不安を持たれる内容である。新校舎を建てるのか既存の校舎のまま合併するのかとでかかる時間が全く違う。いつまでにどういうことをやるのかとういことも含めて、ロードマップを来年度中に作るのはどうか。

教育長：私的な意見を踏まえてだが、教育委員会側としては町全体として考えており、具体的に問題を抱えている学校もしっかり把握している。しかし、そこだけに視点をあてた話し合いになってしまうと、まだ解決しなくてはならない問題は他にもあるので、第三者を入れながら地道に検討を続ける。教育委員会として方向性を出すという点については答申を頂いた後に時間をかけて協議し、町長部局と話し合いをする。

- 会長：少なくとも 30 年度を目途にロードマップを作成することが望ましいというような内容を書き加える。最終的な決定は町長部局が下すので、教育委員会では、一方的な答申は出せない。早急な対応をしなくてはならないが、計画を 30 年度中に出すのが望ましいという内容でよろしいか。
- 委員：森町の公共施設の状況についての項があるが、改修等の費用など具体的にかかる金額というのは把握しているのか。「森町公共施設等総合管理計画」を策定しているとあるが、話せる内容があれば教えて頂きたい。
- 事務局：「森町公共施設等総合管理計画」は、教育施設のみならず、森町が所持している全ての公共施設について、建築年度が集中し、現在老朽化しているので、森町として計画的に改築及び改修を行うために、今後どの程度の予算が必要になるのかということを決めている。建築年数が 30 年以上経過している建物のうち、教育施設が 7 割近く占めている。今の森町の人口規模と将来の人口規模を考えると、公共施設の全体的な面積を減らさなければ維持ができないので、多数を占めている教育施設を統廃合することは必要であると計画の中でも示されている。
- 委員：今の内容は統合などを考えず、今の公共施設を改修したものを資料としてあるが、統合した場合はどの程度の費用が減らせるというものはあるか。
- 事務局：統合した場合の内容はこの計画にはないが、それぞれの学校の維持費用を試算することはある程度可能なので、統合した場合にかかる費用等を出すことはできる。ただし、学校は国から交付金が出ているので、学校を減らせば単純にその分必ず費用を削れるというものでもない。現状は老朽化が進んでいるので、修繕費は年々多くなっていることは確かであり、今後も増大する。
- 委員：そういった内容を報告書に入れるのは適切か。
- 会長：公表されているものに関しては部分的に入れることはできる。学校をどうすればどの程度費用が浮くかというのは業者に試算してもらわないと分からない。相当大まかな話として、小さな学校を建てると十数億円、大きな学校を建てると百億円を超える場合もある。1 学年 2 学級程度を想定すると小学校で 15 億円から 20 億円ぐらい。市町村の規模にもよるが、だいたい 4 割程度が教育施設なので、森町は割合が相当大きい。一概には言えないが人口規模では小・中学校を合わせて 5 千人で 1 校ぐらいが一般的なもので、森町だと小・中学校合わせて 3 校程度になる。小・中学校それぞれ 1 校ずつでもおかしくはない。人口 3 万人ぐらいの吉田町では、小学校 3 校、中学校 1 校である。人口 17 万人ぐらいの磐田市では、小・中学校合わせて 32 校。人口 11 万人ぐらいの掛川市では、小・中学校合わせて 31 校である。人口規模で見ると、森町は他市町村に比べて多い。長期的に見て縮小しなければならないのは間違いない。骨子案にする際に具体案について十分な議論をしてはいないので、公表されているものを数値として挙げるぐらいであれば問題ない。
- 委員：この答申は、最終的に教育委員会へ出すので、実情を十分把握しているため不要であると思う。
- 委員：幼稚園についての検討課題として、幼稚園で働く側としては厳しい意見も多いが、保護者からの意見を確認できたのはありがたい。検討の視点にある望ましい学校規模についてはアンケートの結果を受けての内容になっているが、検討会の方向性として具体的に記載した方が良いと思う。
- 会長：どの程度根拠があるのかというところで、アンケートの回答のピークがあるが、明確な適正規模として回答できるほどの根拠にはならない。適正な学級数などは地域の風土や環境によってかなり変わる。例えば部活動が強い学校はもう少し規模が大きくなると強さを維持できない。少し僻地にあり、特別支援が必要な児童生徒が多い学校であれば、もう少し小規模な方が良い。このように学校によって適性が変わ

るので学校規模について断言できない。

委員：子供にとっても教職員育成の観点からも単学級は厳しい。少なくとも複数学級は欲しい。

会長：学級数については明確に決めることが難しいのでこの内容でお願いしたい。1学年あたりの人数については20人を下回るのは少し厳しいと考えている。

(2) その他

会長：次回では大幅な修正が出来ない可能性がある。報告書の骨子案以外にもあれば意見を願う。

委員：答申の中に「30年度中にロードマップを作成する」という内容が入るだけでも前に進んだと感じている。この検討会の主な役割でもあるのでこの方向性でお願いしたい。

各委員：同意

4 連絡事項

会長：次回までに骨子案をもう一度見直したうえで、大きな主旨は変えず、細かい表現等を修正する。出来れば次回に結論を得る形を考えている。

事務局：次回開催日は平成30年3月13日火曜日14時から開催予定。文化会館小ホールで行う予定。答申に関しては事前に配布するので目を通して頂きたい。

5 閉会

事務局：以上をもって、第5回森町学校のあり方検討会を閉会する。

以上